

これからの電子ジャーナルのグローバルな展開

--商業出版・学会出版・オープンアクセス・恒久保存・著作権--

科学研究、技術開発の基礎となる学術情報流通の構造は、インターネットの社会的な普及を経た21世紀を迎えて大きく変化したと考えられる。その変化を象徴するもっとも印象的な現象は、たった5年しかかからなかった「電子ジャーナル」の急速な普遍化である。電子ジャーナルの出現は、学術雑誌に研究者が投稿した論文がピアレビューを受けて採択されたあと、印刷、製本され、多くの場合図書館に頒布され、そこで研究者が閲覧して、それをもとに一層の研究成果を生み出すという一連の流れに介在してきた、学会、商業出版者、図書館、代理店、データベース業者等の役割を変貌させたとともに、それらの関与者との間の経済的、社会的関係にも影響を与えるようになった。この講演では、このような動向が今後どのような方向に展開するかという点について、複数の視点からの考え方を比較しつつ、背景となる社会的関係の変化を考慮して議論する。